

芥川龍之介：「桃太郎」

□なぜこの本を選んだかと言うと、だからです。

「桃太郎」というと、というイメージがありました。

□この話はで、イメージと違いました /

思ったより楽しかった / 複雑な気持ちになりました / ○○○が好きになりました / ○○○がきらいになりました。

□作者の芥川龍之介については、
という印象がありました。 / あまり詳しくありませんでした。 / ○○○○○○くらいしか知りませんでした。

□この小説の桃太郎は、なところがあるので、
なところが好きです。 / 共感もてました。 / 意外性がありました。

逆に、なところが

好きになれません。 / おどろきました。 / 友達にはなれないと思いました。 / マンガの主人公みたいでした。

□鬼が島へ鬼退治に行った桃太郎たちですが、旅のおともになる犬や猿や雉(キジ)たちも、私が思っていた
イメージと違います。な点が違い、

なところが

おもしろい / 信頼できない / イヤなやつらだな / マンガみたいだな と思いました。

□桃太郎たちは私たちが知っている「正義の味方」ではないので、鬼が島の鬼たちは
なくらしをしていました。童話の「桃太郎」の鬼のように、ではないし、

私はだと思いました。 / 感じました。

□鬼たちの目から見れば、人間はなのかもしれません。

□芥川龍之介は、ということ

「桃太郎」というみんなが知っている物語を使って 伝えたかった / 表現したかった のかなと思いました。

□子供のころ読んだ童話の「桃太郎」ではなく、芥川龍之介の「桃太郎」を読んだことで、物語 / 出来事には
それぞれの視点でものの見え方が変わること に気づきました。 / を考えるようになりました。 / を知りました。

□芥川龍之介の想像力で、心やさしい正義の味方の「桃太郎」という物語が、
という物語になりました。鬼にとっては、という物語になりました。

□私はこの小説を読んで、
だと思いました。 / と考えさせられました。 / という点を気を付けようと思いました。